

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 3 2 原作シナリオ

山崎浩治

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 3 2 原作シナリオ

1 xx病院・診察室

白衣の女性医師の話をしているオネエ所長とサオリ。
医師「いまのうち、したいことをさせてあげてください」
オネエ所長・サオリ「(衝撃を受けている)……」

2 病院・ホール

長いすに座って放心しているオネエ所長とサオリ。
サオリ「お母さん、ピアノ買って練習を始めたの。ピアノ弾けるようになるのが子どもころからの夢だったって」

3 「ピアノ教室」の中

ピアノ教師の指導を受けながら、ピアノを弾いている杏子。
サオリのOFF「でも練習しているのはパッヘルベルの『カノン』だけ。何曲も練習する時間はないからって」
真剣な表情で鍵盤に向かう杏子。

4 杏子の家・ダイニング

大きな土鍋を両手で持ってキッチンから来る杏子。
室内にはオネエ所長と菜摘、サオリがいる(背後にピアノキーボードが見える)。
オネエ所長「招待してくれて、ありがとう」
杏子「鍋は大勢で食べなきゃ美味しくないからね」
菜摘「(両手を合わせて)いただきます！」
鍋を囲んで食べ始める一同。
x x
菜摘がリビングのソファで眠っている。
リビングに置いたピアノキーボードで練習している杏子。
キッチンで後片付けを終えてやってくるオネエ所長とサオリ。
オネエ所長「片付け、終わったわ」
杏子「昔はお皿1枚洗わなかった人がオネエになると変わるものね」
オネエ所長「(菜摘の隣に座って、さりげなく)杏子、何かしたいことはないの？」
杏子「(即答で)そりゃ、若いイケメンとデートよ」
オネエ所長「……行きたいところは？」
杏子「月世界旅行」
オネエ所長「あたしは真面目に聞いてるの」
杏子「したいことなら、たくさんあるわ。でも、もう時間切れ」

オネエ所長「……」

#5 居酒屋「まわりみち」(別の日の夜)

アヤカ「焼酎のお湯割り、お待ち」

オネエ所長の前にグラスを置くアヤカ。

オネエ所長「アヤカは杏子の病気のこと、知ってたんだってね」

アヤカ「黙ってて、ごめんなさい」

オネエ所長「杏子から口止めされてたんでしょ？ こちらこそ、ありがと。いろいろ心配してくれて」

アヤカ「いえ、そんな……」

オネエ所長「(ぽつんと)ねえアヤカ、あたしが杏子にしてあげられることって何かな。あたしにしか、できないことって……」

#6 杏子の家・リビング

杏子、ピアノの練習をしている。

杏子のOFF「悲しい時は好きなことを思い浮かべる。真夏に飲むキンキンに冷えたビール、寒い冬の夜に飲む日本酒の熱燗、カラオケで歌うピンクレディー、ハッピーエンドのラブストーリー……そして家族のアルバム」

アルバムに貼られたさまざまな写真。

赤ん坊のサオリ、保育園の発表会で舞台に立つ園児のサオリ、小学校の入学式で校門の前に立つサオリと杏子、そしてその傍らに立つ男の格好をしたオネエ所長。

写真を見つめる杏子の横顔。

男の声でOFF「杏子さんはウエディングドレス、着たいんすよ」

#7 居酒屋「まわりみち」

オネエ所長「(不意を突かれて声の方を振り返る)」

近くの席に座ったハルオが酎ハイを飲んでいる。

ハルオ「前に杏子さんが言ってました」

#8 カラオケボックス(回想)

杏子「ハル君、`瀬戸の花嫁、入れてちょうだい」

ハルオ「杏子さん、この歌好きっすね」

杏子「あたし、ウエディングドレス着られなかったからねえ……(遠い目)」

#9 もとの居酒屋「まわりみち」

オネエ所長「(何かを思い出して)……」

10 住宅街の一角(回想)

何台ものパトカーや制服警官でひしめいている。

覆面パトカーから降りたオネエ所長(男装)が規制線をくぐって現場に入っていく。

オネエ所長のOFF「結婚式直前に事件が起きて、そのころ刑事だったあたしは捜査に駆り出され、結婚式もハネムーンもキャンセルした……」

11 片町の実景(別の日の夜)

12 居酒屋「らくまつ」表

13 同・店内

カウンター席で熱燗のコップ酒を飲んでいる杏子。

男の声「オレに一杯奢らせてもらえませんか」

杏子「(声の方を振り向く)」

杏子の隣にトオルが座っている。

杏子「あなたみたいなイケメンが、こんなおばさんに何の用？」

トオル「あなたはおばさんなんかじゃないですよ。とても魅力的です」

杏子「お世辞だと分かっても、うれしいわ。それであなたの魂胆は？」

トオル「月並みなセリフだけど、デートしませんか」

杏子「若いイケメンからナンパされるなんて夢のようね。でもデートはお断り」

トオル「なぜです？」

杏子「好きな男がいるのよ。片思いだけどね(とコップ酒を飲み干す)」

トオル「所長は幸せですね、杏子さんにそんなに愛されて」

杏子「(驚いてトオルの方を振り返り)あなたは誰？」

トオル、消えている。

杏子「(茫然として)……」

ホールで働くハルオがやってくる。

ハルオ「杏子さん、あんまり飲み過ぎちゃダメっすよ」

杏子「いまの人、どこに行ったの？」

ハルオ「もう酔っ払ったんすか。一人で飲んでたでしょ？」

杏子「！」

そこに暖簾をくぐって現れる白いタキシード姿の男(顔は見えない)。

杏子「(男に気付いて言葉を失って)……」

男は―― `男前、に变身したオネエ所長。

オネエ所長「(杏子の前でひざまずき)もう一度、あたしと結婚して下さい」

差し出したのは――指輪。

オネエ所長「あの時できなかった結婚式を挙げましょう」

杏子「(瞠目して言葉を失っている)」